

【ナムナム】

# 南無/numb

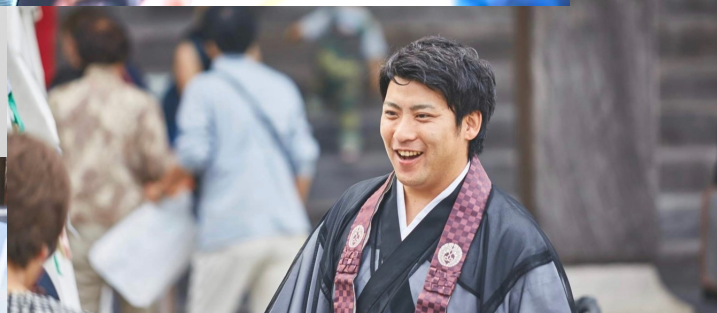
マヒした心を解きほぐす。坊主のつぶやき。



# 1

錯綜するメディアの情報、  
それを鵜呑みにする多くの人々。

効率化を求め、大切なものを忘れた現代人。



近代合理主義は我々の価値観を、心を、身体を、マヒさせた。

Numb [nám]

1. (身体の一部が) 麻痺している, 感覚を失った
2. (悲しみなどで) 無感覚になった, 茫然としたぼうぜん

# は

じめまして、こんにちは。私たちは、浄土真宗本願寺派僧侶の青年会（鸞翔会）です。日頃か  
ら、ご門徒をはじめ、多くの方々にお世話となっており、大変ありがたく思います。

さて、私たちは現在、目まぐるしく変化する社会の中で生活を送っています。また、様々な価値  
観が多様に移り変わり、新たに形成されていきます。その中で各々が悩み、不安を覚え、生きづらさを感じるこ  
とも少なくありません。

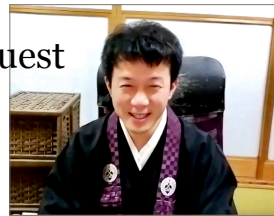
そこで、鸞翔会として何かできることは無いか？と模索する中で、私たち僧侶の『コトバ』を皆様に向けて発  
信していこう！との思いが高まり、こちら“南無<sup>ナムナム</sup>/numb”を発刊させていただき運びとなりました。

私たち僧侶自身も、この時代の流れに様々な迷いを感じており、悩むことも多々あります(実は、お坊さんも煩  
悩だらけです笑)。その中で皆様と一緒に、ほとけ様の教えを共有し、学び、深め、そして共に力強く生きて行く  
ことを目標とし、様々な情報を提供させていただきたいと思います。

合掌

## INTERVIEW よしなしごと

新型コロナウイルスの拡大によって、多くの人が不安な日々を送っています。コロナ禍のいまをどう生き抜き、これからの社会をどう生きるか。青年会会長の福田慶隆さんに聞いてみました。



Guest

福田 慶隆

Keiryu Fukuda

高岡市笹川 廣済寺若院。鸞翔会会長。20カ国近くを旅し、現地の辛いものを片っ端から食べてまわる。天然。

公文名 智

Satoru Kumona

射水市市井 光照寺若院。鸞翔会きつてのイケメン。鋭い視点で世間を斜めからぶった斬る。子煩悩。



Interviewer

多様な選択、を認めること

**公文名** 不安の理由の一つには、コロナウイルスが一体何なのかわからないという事とは別に、個人それぞれの対応の違い、考え方の違いがあるように思います。子供を保育園に通わせるべきだろうか？お店を休業するべきか否か？そもそも何をどう自粛したら良いのか？人によって判断や選択が分かれることがかなりのストレスであるように思います。

**福田** そうですね。不安の中では自分の考えと違う人に対して感情的になり、排他的になってしまいうこともあるかもしれません。僕もスーパードカでマスクをしていない人を見ると「あの人マスクつけてないけど大丈夫かな？」と心の中で戸惑ってしまう自分がいます。

**公文名** ぼくも同じです(笑)。これまで大切にしてきた人間関係が、置かれた環境や立場の違いによって崩れて行くような気がしています。そうならないためにはどうしたらいいんでしょう？

**福田** ん〜：まずは色々な選択を認め合うことが大切ではないでしょうか。たとえば在宅での仕事に対応できる人もいる一方で、電車通勤をせざるを得ない人、金銭的に休むことが難しい立場の人もあるわけです。それぞれが抱えるリスクと現実生活のバランスによって、選択や判断が多様になるのはある意味当たり前とも思いますが。大事なものは、その時自分の考えと違う人にどう向き合うかでしょう。

**公文名** 今、自粛警察、なんて言葉を耳にしますね。お互いがつらい状況にある中で、一般市民が一般市民を取り締まり、自粛しないお店などを警察に通報する。色んな立場、選択があるにも関わらず、自分は正しいことをしている、という、おごり、みたいなものが感じられます。

**福田** そうですね。仏教では、自分自身のおごり、を鋭く見つめることが大切であると言われます。おごり、をぶりの裏側は、本当のことが見えていない、とも言いますよね。

**公文名** 本当のことってなんですか？

**福田** 何だろう(笑)。人のことばかり目について、自分自身のことが見えていないということかな。一方的な価値観だけで物事を捉えた時には、いくら人のことを思いやってみても、本当の意味でお互いを認め合うということにはならないのではないのでしょうか。

**公文名** 自分自身に、おごり、の心が無い、常に点検しないといけませんね。僕らも気をつけましょうね(笑)。

目に見えないものへの想像力

**公文名** 目に見えるわかりやすいものを追い求めてきた現代人は、よくわからないものへの感覚が鈍いように思います。この問題は死の問題にも通じますね。

**福田** 確かに自らの死は実感できないですし、死者とのつながりも目に見えません。ただ、そのことから目をそらすに受け止め、考えていく。想像することが大事ではないでしょうか。

**公文名** ぼくも死の現実から学ぶべきことは多いと思います。よりよく生きることばかりが言われますが、むしろ

# なんでお葬式をするの？

## ～お葬式について考える～



青木 哲隆

Tetsuryu Aoki

射水市朴木覚円寺の住職。鸞翔会21代会長。食には厳しいが後輩思いの兄貴分。

お葬式にもたくさんの形があります。「一般葬」「家族葬」「密葬」「一日葬」「直葬（火葬式）」など。近年は価値観の多様性が認められる中で、「葬儀はこうでなければならない！」というものではなくなってきました。これらすべてはお葬式ですから、人が亡くなれば、必ずお葬式はするわけです。議論に上がるのは「広く知らせるのか、近親者で済ませるのか？」「宗教者を呼ぶのか、呼ばないのか？」という2つのことです。

どのようなお葬式であっても自由に決めることができ、法律的には全く問題ありません。それぞれの考え方があっていいと思います。ここでは是非を問いません。

### <広く知らせるのか？近親者で済ませるのか？>

これは、どちらにも一長一短があります。紙面が限られておりますので、機会があれば述べたいと思います。

### <宗教者を呼ぶのか？呼ばないのか？>

この地域ではまだあまり聞きませんが、都会では宗教者を介さないお葬式もあるそうです。ここからは、僧侶の立場からお話させていただきます。

宗教者を介さない直葬や火葬式を選択された方の中には、時間が経ち、後悔の念に駆られて、改めてお葬式を勤める方が少なからずおられるそうです。なぜなのか？誤解を恐れず言えば、「宗教的な空間や儀式」が心を落ち着かせ、死を受け入れて、これからの第一歩を踏み出す「時間と場になる」からであると思います。それをしなかったために、気持ちの整理がつかない場合があるそうなのです。

さらに浄土真宗においては、お葬式の一連は、阿弥陀さまを中心とした空間で読経をし、ご法話をさせていただきます。そこでは「生老病死」の現実を目の当たりにし、生きることの厳しさを知らされます。しかし、亡き方との私の関係が途切れてしまう「告別」ではなく、往生され仏になられた方と遺された私との新たな関係が結ばれる出遇いの場も、お葬式の一つの役割であると思います。

そして集ってくれた方々が一緒に涙を流し、ただ一緒にそばに居てくれることで孤独や悲しみを抱えながらも、それを乗り越えていく力を与えてくださるのだと思います。これまでのお葬式が、なぜ地域や周囲の方々と共に勤められてきたのでしょうか？そこには深い意味があるはずなのです。

つまり、「宗教的な空間や儀式」は、愛別離苦の悲しみのご真ん中に居る私を支えてくれる大切なものであると考えます。  
※避けては通ることのできない、人間の根本苦の一つ。

### <結論>

価値観の多様化、個人主義などによって、様々な束縛から解放され、選択肢が増えました。「遺体の処置」だけに着目すれば、火葬だけで済ませるのが合理的でしょう。「迷惑をかけたくない」は、遺された方へ向けての尊いお気持ちです。しかし、迷惑でもいいから弔わなくては心の整理がつかない方もおられるでしょう。これまで一人で生きてきたわけではありません。これからも一人で生きていくわけではありません。習慣にとらわれず、時代に流されず、「お葬式」について考えてみませんか？

ろ、よりよく命を終えるとは何か、いわゆる終活に留まってしまうのではなく、いのちそのものの意味を考えていくことが、自分自身の本当に大切なものを見つめることにつながると思います。

### これからをどう生きるべきか

**公文名** 今は社会のあり方だけでなく、個人の生き方、働き方を見つめ直す大事な時期にあると思いますが、どうでしょうか？

**福田** コロナ後の社会をどう生きていきたいか今考えることはとても大切なことだと思います。コロナ禍において私たちが今何を感じ何に恐れ、何に喜びを見つけているか。。コロナ以前の当たり前としてきた感覚が果たしてそれで良かったのか、問われているんじゃないでしょうか。

**公文名** そもそもコロナが終息するとは限りませんがね：ウイズコロナ時代に突入か。。。

**福田** 働き方でいえば、今、在宅勤務が推奨されていますが、中には「このスタイルでも意外に働けるんじゃないか」と感じた人ももしかしたらおられるかもしれません。家族との時間が増えたことに大きな喜びを感じている人だっているでしょう。利益追求の消費社会に疲れた人が、多様な生き方や働き方に可能性を感じるきっかけになるかもしれません。

**公文名** 地方への関心度も高まりそうですね。都会よりも田舎で自然と共に、みたい。そういった広がりのある社会の方が健全な感じがします。

**福田** お金はもちろん大事ですが、自分自身の幸せの本質はどこにあるのか？ということとちゃんと自分で考えて、想像して生きていこう！と意識してくださいね。

**公文名** 東日本大震災の時にも同じような議論になったと思いますが、いつの間にか元の感性に戻ってしまったって、そのことに気づいてさえないという…。

**福田** まさにマヒ！マヒした心身をマッサージするのがほとけの教えですから。僕たちも僧侶として色々なアプローチをしていきたいですね。

# HAPPY ナムナム



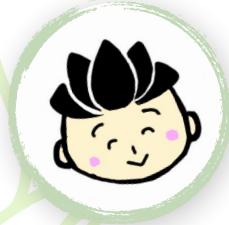
みなさん、こんにちは。僕は、鸞翔会公認キャラクターの『レン君』だ。こちら、『happyナムナム』の編集を任せられているよ。楽しいコンテンツを提供していくので、よろしくだ。なもー！！（語尾の「～だ。なも。」は口癖です笑）

## 身近な仏教用語



和顔愛語（わげんあいご）

『和顔愛語』と



は、和やかな笑顔と、優しい言葉で相手に接することです。お釈迦様がおっしゃられたあたたかい教えで

す。最近なんだか元気が出ないな…つて時にぜひ思い出してください。あなたの和やかな笑顔と優しい言葉が周りの人を幸せにし、あなた自身もきつと救われていきますよ。

我慢（がまん）

我慢とは、仏教

では煩惱のひとつとして考えられています。慢（まん）とは慢心とも

言い、うぬぼれのことです。我慢とは

我（自分）の慢心にかんじがらめにされて、正しく判断できない状態と言えるかもしれません。もしかすると、あなたの我慢は自分自身の慢心であって、見方を変えると新しい道が見えてくるかもしれませんね。



## ～レン君日記～vol.1



LINNE

今日



こちらは、LINNE（りんね）コーナーです。皆さんとの“つながり”を大切に、様々な情報を発信していくよ。お見逃しなく！

18:15



今回は、とりあえず鸞翔会（らんしょうかい）のSNSのQRコードを↓に貼り付けておいたから、チェックしてみてね(^^)

18:16



質問・リクエスト等は下記QRコードから、お気軽にご連絡いただくと、ありがたいです。よろしくおねがいします(◡‿◡)

18:20

19:00  
既読

りよ

各種SNSも逐次更新しておりますので、ぜひご覧ください。お問い合わせは、SNS内のDM、または [info@ranshokai.jp](mailto:info@ranshokai.jp) 【鸞翔会公式アドレス】で受け付けております。

Instagram



Facebook



Twitter



浄土真宗本願寺派高岡教区

# 鸞翔会

※得度は本来、丸坊主です。漫画です。ご理解ください。